

埼玉会

浦和市岸町四―二五―一五 小松ビル二階二〇三号
 〒三三六 〇四八八(二二) 三九三九



吉池会長

会長 吉池 清
 副会長 山口 春信
 内野 福二

十年の歩み

埼玉県における社労士業の草創は、基準行政が労災保険の普及に力を入れていた昭和二十六―七年度に始まり、当時労災保険の事務代行を専門に行う者が県南地区に若干名いたのが始まりである。

その後県内各地にその数を増し三十年代後半には、労務管理士のタイトルで活動していた者が数十名いると推定され、これらの人達の活動は企業はもとより行政機関もその存在を高く評価していた。

昭和三十八年労働省サイドの社団法人日本労務管理士協会が設立されたのを機に、これら労務管理士はこぞって同会に加入し社会的身分の確立をはかった。

昭和四十一年十二月十四日には、同協会埼玉支部(支部長平田高美(故))が誕生した。当時の会員数は六十七名で大部分は開業者であった。

一方、昭和三十九年に厚生省サイドの社団法人日本社会保険士会が設立され、その支部(支部長立石静一(故))が昭和四十二年八月誕生した。当時の会員数は約五十名で、社会保険関係官庁の現職職員と企業内の社会保険事務担当者が大部分であったが、その後開業

者の参加が目立って四十五―六年には前述労働省サイドの会員の大部分が加入した。

昭和四十六年四月十四日、埼玉社会保険労務士研究会が発足した。この会は、社労士の大同団結をめざして開業者の有志が既往の所属団体分野にこだわらず、積極的に関係行政に協力し、さらに逐年高度化・専門化する労務管理の技法をうけとめようとする新団体結成への動きでもあった。

同研究会は、同年九月十四日、社団法人埼玉社会保険労務士協会(会長小川正決)となる。当時の会員数は百三十四名で全員開業者で構成されていた。

この時代は既に関係行政官庁においても社労士の活用は年中行事にも定着していた。そして社労士自身も二つの所属団体があることの矛盾を持ち、両団体一本化を要望する声が高まってきた。

機熟して中央の社団法人全国社会保険労務士会の設立と相まって昭和五十一年十一月十七日、社団法人全国社会保険労務士会埼玉会(会長中村与佑)が設立され、両団体は発展的に解散し名実ともに大同団結が実現し現在に至っている。

現在会員間に旧来の所属団体にこだわる意識はほとんどみられず、会員相互の親睦は日毎に高まって発展への歩みを続けている。

主な事業

- (1) 低成長時代に対応した国の雇用対策、福祉施策への積極的協力、
- (2) 無料相談所の設置等地域社会に密着した活動の展開、(3) 資質の向上に資する研修・講習の参加拡大、(4) 会員の増強と組織の強化推進、
- (5) 企業内社労士の地位向上側面援助推進、(6) 登録団体実現に向けての法改正運動推進を基本とし、三十指に余る諸事業を行っている。